



令和5年5月22日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第11号

地域の災害リスクを踏まえた防災教育を行いました ～蒲刈島・下蒲刈島を全員で巡りました～

5月15日（月）、全校生徒及び全教職員がスクールバスに乗って、蒲刈島と下蒲刈島を巡りながら、地域の災害リスクについて学びました。当日は、呉市消防局蒲刈出張所消防隊の原田様、福本様、沖川様に同行していただき、西日本豪雨による被害を説明していただくとともに、大雨や台風接近時の避難方法などについても学びました。

呉市教育委員会は、地域の災害リスクを踏まえた防災教育を推進しており、西日本豪雨などの災害の歴史を風化させないとともに、今後郷土で起こり得る災害についての知識と避難方法を身に付けることによって「自分の命は自分で守る力」の育成を目指しています。

今回、実際に地域を巡って、消防隊の皆様から災害リスクとその対応について学ぶことができたため、生徒や先生方も納得しながら理解を深めることができました。また、生徒の皆さんは、今回学んだことを5月19日（金）の小中合同避難訓練の時に、小学生に説明することができました。これから梅雨になりますので、ご家庭におかれましても防災について話し合っていたいただきたいと思います。



【生徒の感想から】

- ・実際に土砂崩れなどの被害にあったところをまわって、やはり自分の身は自分で守る大切さを改めて学んだので、これからもっと命を大切に生きていきたいと思いました。
- ・今回の学習から、災害が起こる前から、どう避難すればよいかみんなが分かっておく必要があると分かりました。いつ起こるか分からない災害に向けて、早いうちに家族と話し合っ、備えておきたいと思います。
- ・避難するときは、もし台風だったら海から離れて、大雨の場合はがけや斜面から離れて避難することが分かりました。そして、西日本豪雨を経験した私たちが経験したことがない人に伝えていき風化させないようにしたいです。
- ・避難するときは側溝やガードレールのない場所に注意し、斜面から離れた場所に避難したい。
- ・土砂災害が起こって考えるのは遅いから、事前に被害を受けやすいところを知ったり、日常から考えたりすることが大切だということが分かった。「自分の身は自分で守る」「家族やまわりの人々を思いやる」が大切で災害が起こったときに、気遣いのできる人になりたいと思いました。

土砂災害対応の避難訓練を行いました

～出水期に備えて～

5月19日（金）、小中合同の避難訓練を行いました。出水期に備えて、土砂災害対応の避難訓練でした。児童生徒の登校時に土砂災害警戒情報が発表されると、小中学校別々に校舎3階へ垂直避難し、安全確保を図ることになります。避難訓練時は、「おはしも」を合い言葉に、安全に避難することができました。

避難後は、中学校の体育館で合流し、蒲刈島及び下蒲刈島の各地区に分かれて、「ハザードマップ」やタブレットを使いながら、自分たちの住んでいる地域の危険な箇所や災害時の避難場所などを確認しました。

今後は、「土砂災害対応携帯マニュアル」を全員配付しますので、ご家庭におかれましても「自分の住んでいる地域の避難場所」や「避難場所まで行けなかった時に逃げ込むところ」について話し合っ、て、「マイ・タイムライン」に記入してご活用ください。



「引き渡し訓練」ご協力ありがとうございました

～もしものときを想定して～

5月19日（金）の17時00分から17時30分の間、保護者等の皆様による生徒の「引き渡し訓練」を実施しました。昨年度は、PTA総会などを行った日曜日に「引き渡し訓練」を行いましたが、今年度は平日に行い、より実際の災害時を想定した「引き渡し訓練」を目指しました。

当日は、保護者の皆様による引き渡しができた割合は、生徒の72.7%でした。平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様方に来校していただき、誠にありがとうございました。今後も「引き渡し訓練」などの災害を想定した訓練を重ねて、学校としての課題の克服に努めてまいります。

今後ともご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

